

アンケート調査結果

第二章 重要項目：役職などの男女差

役職指数(図2.1-5)

所属機関ごとの役職分布を見ると、大規模アンケートと比べ、水産学会では研究機関等に所属するポストクの割合がかなり少ないことと、企業に所属する取締役以上の割合が多いことが見て取れる。

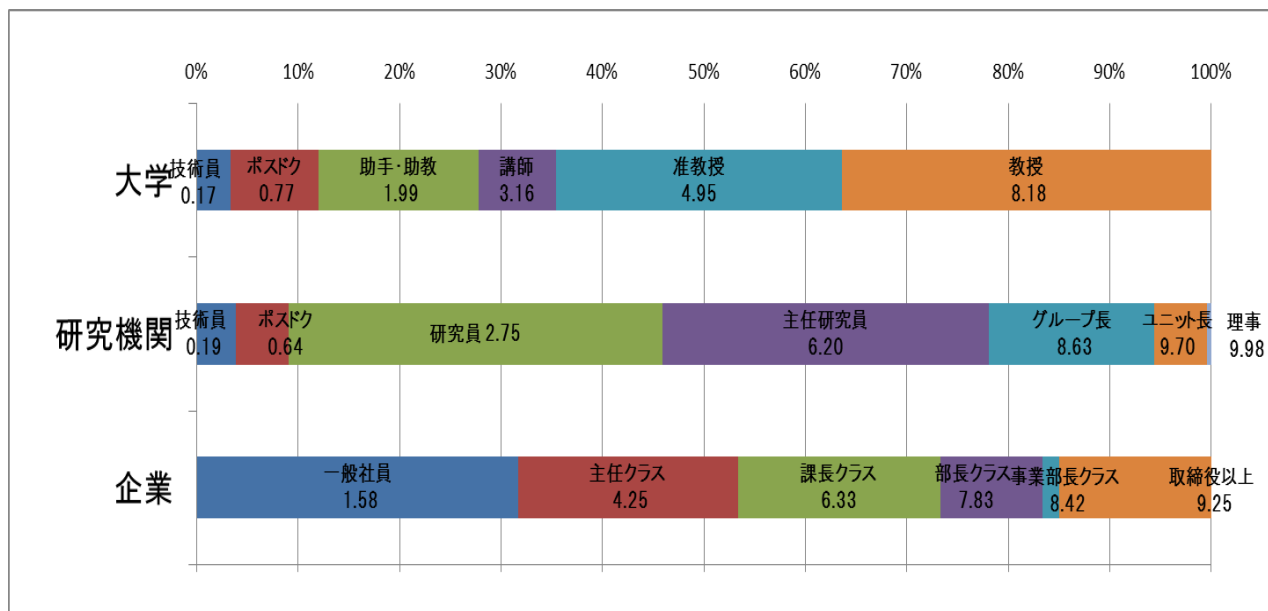
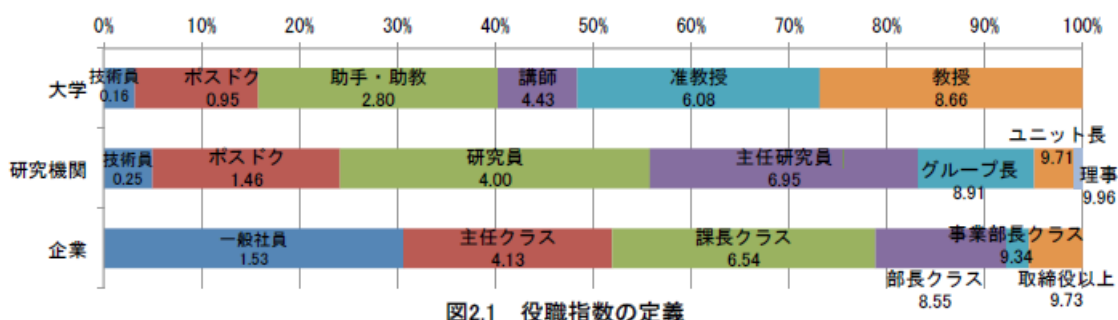


図 2.1 役職指数の定義(水産学会)

役職指数の年齢推移は回答数が少ないため議論がしにくいですが、大規模アンケートと比べ、女性役職者の割合がより少ないことが見て取れる。

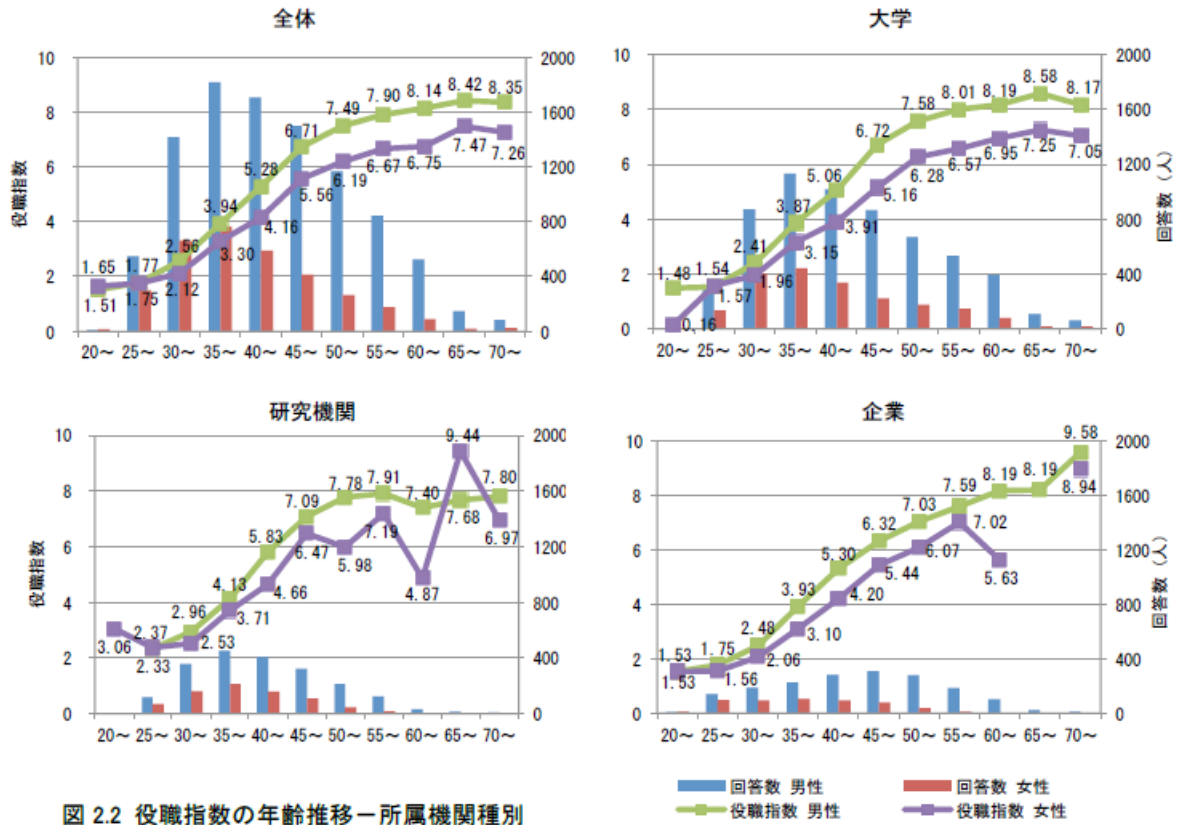


図 2.2 役職指数の年齢推移—所属機関種別

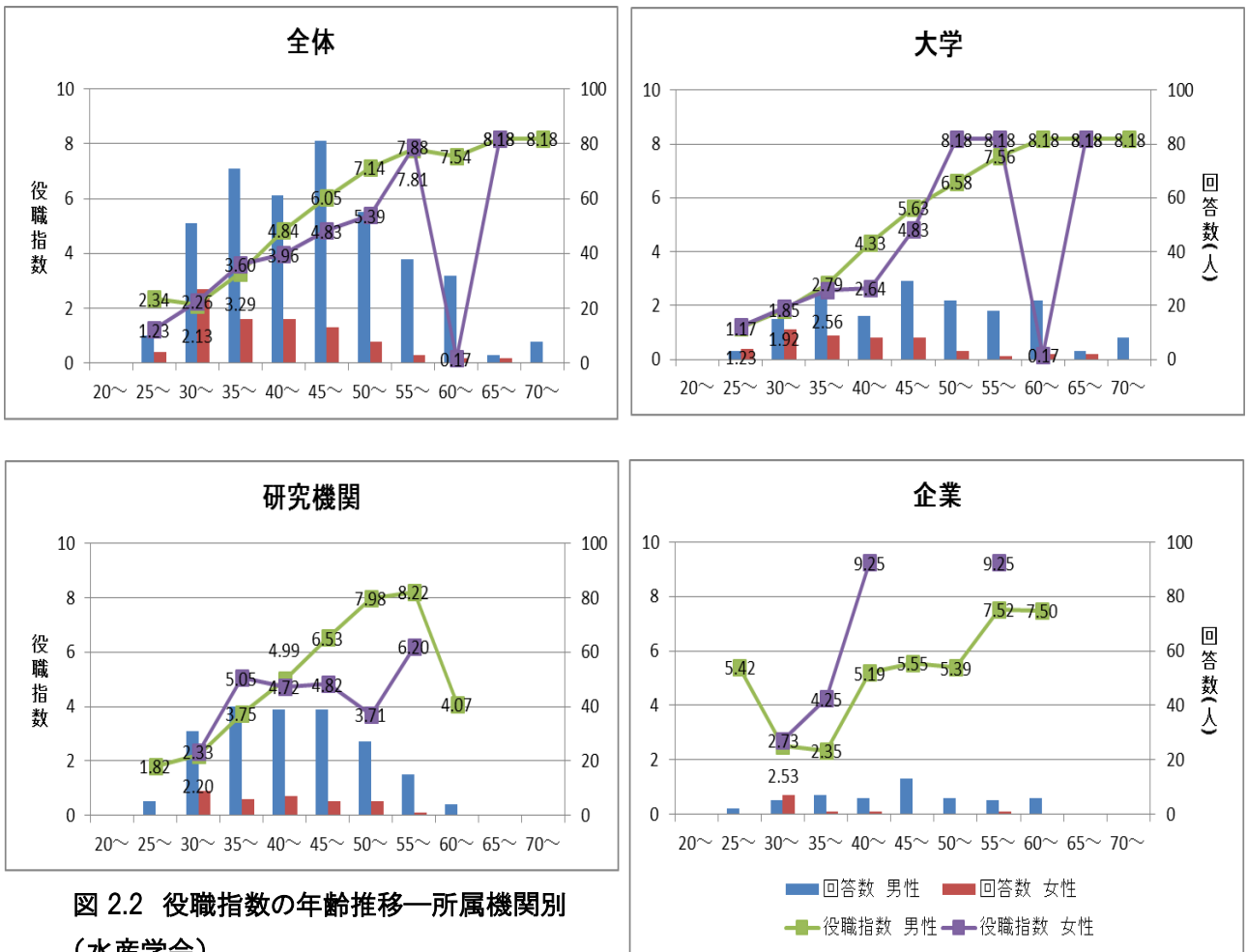


図 2.2 役職指数の年齢推移—所属機関別 (水産学会)

同様に、大学だけで、国立・公立・私立に分けて集計された役職指数の年齢推移についても大規模アンケートとは異なる傾向を示しているが、回答数が少ないため議論は難しい。

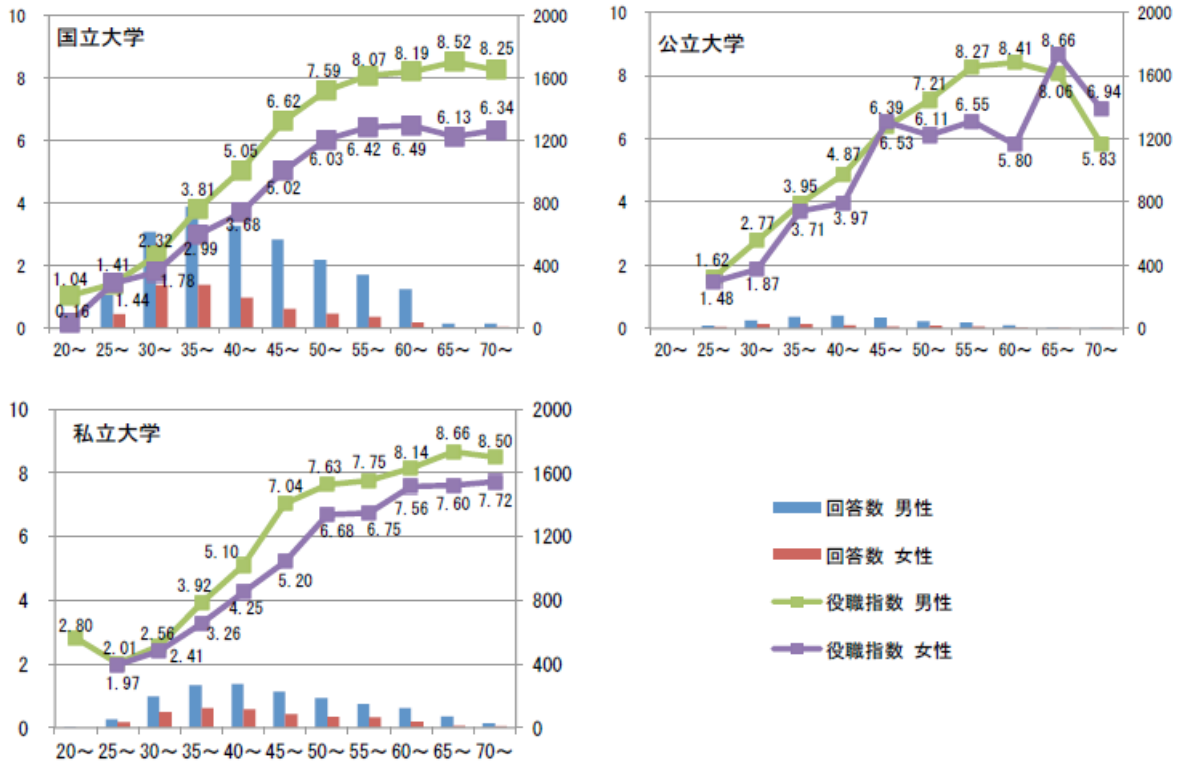


図 2.3 役職指数の年齢推移—大学

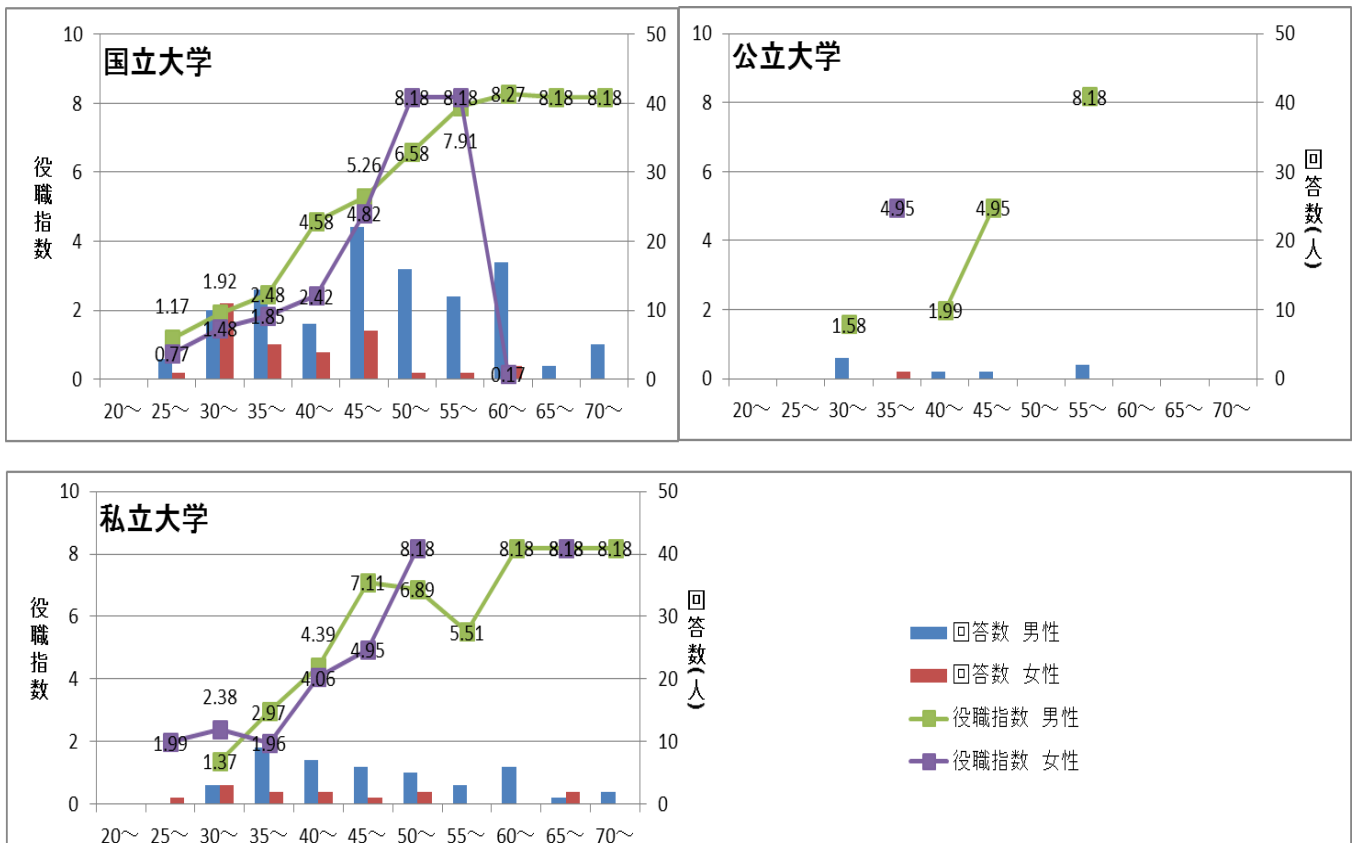


図 2.3 役職指数の年齢推移-大学(水産学会)

所属分野別分析では、主力の農学系で、低年齢層の女性役職指数が男性を上回っている部分もあるのが特徴的である。

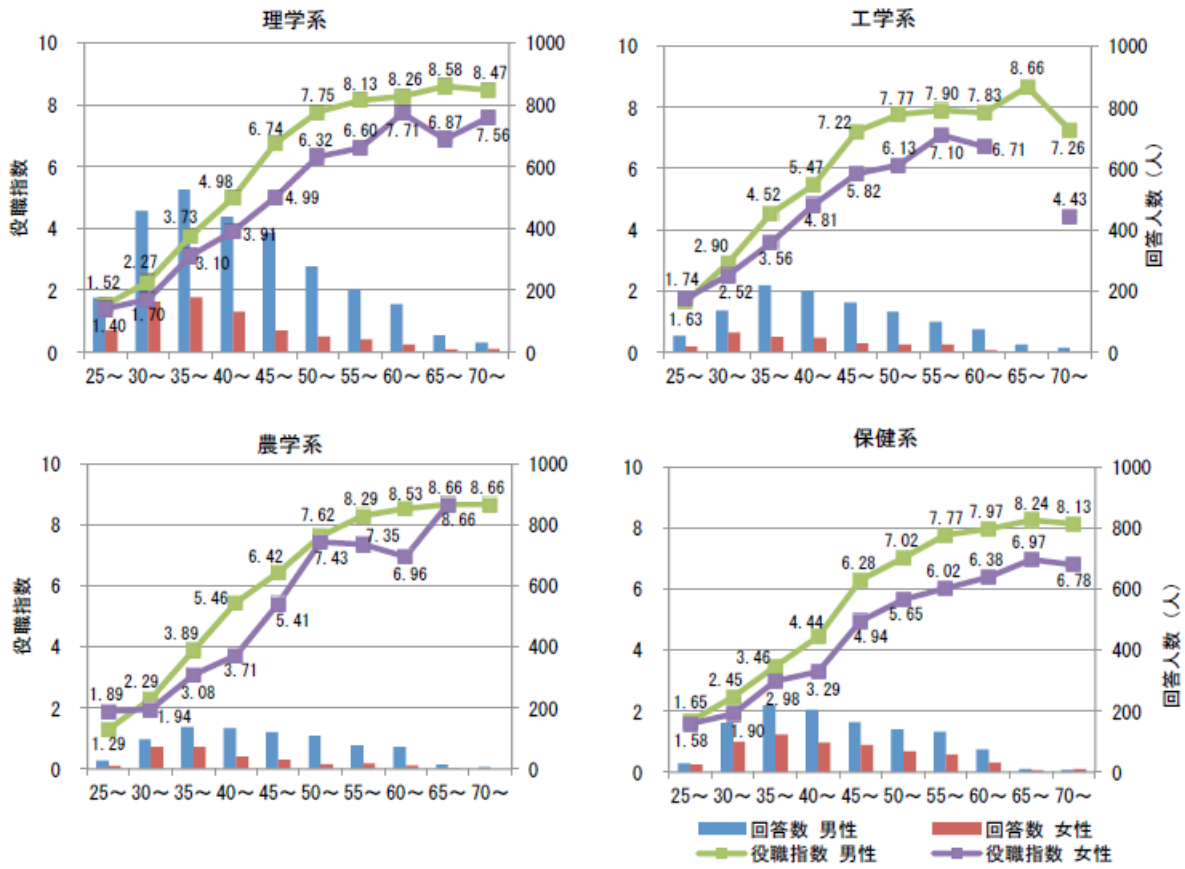


図 2.4 大学における役職指数の年齢推移—所属分野

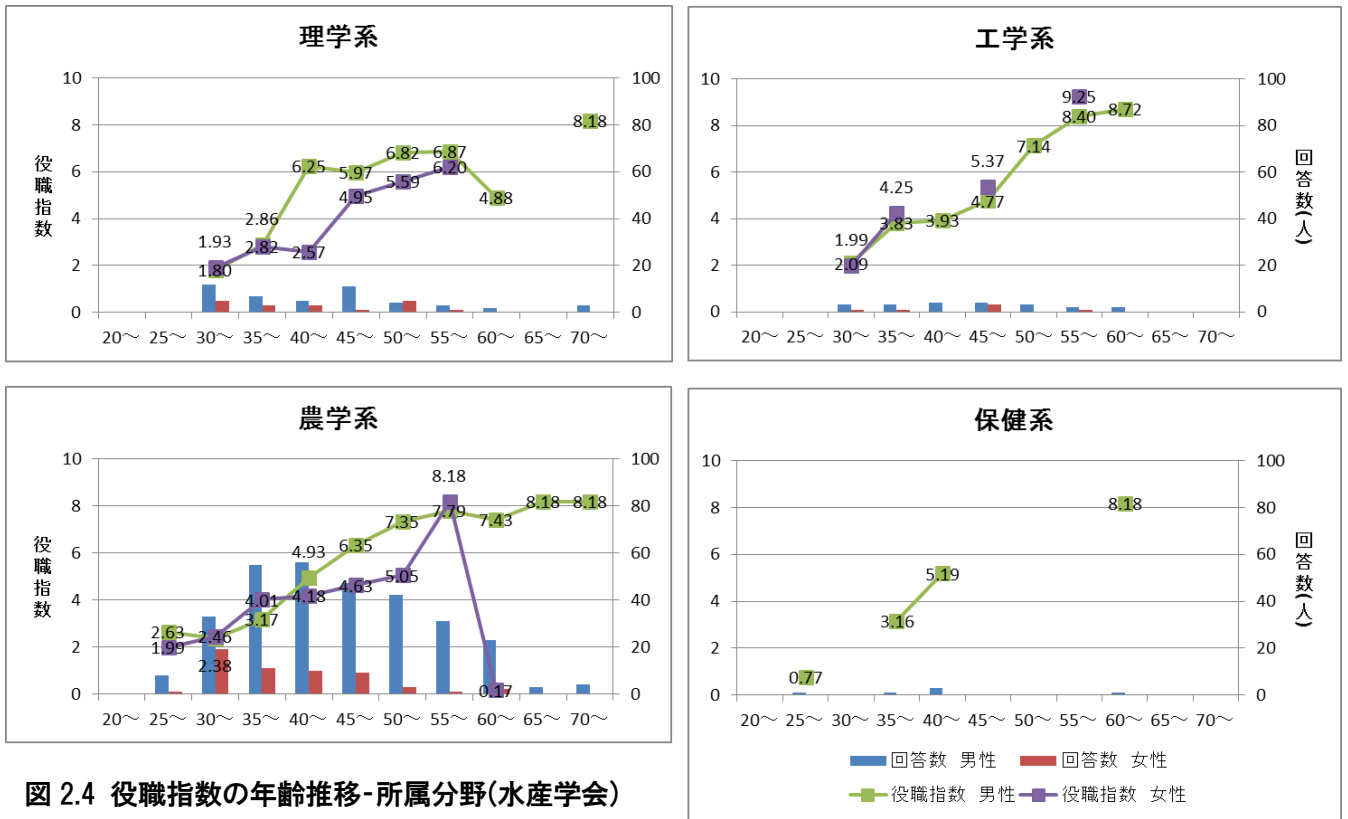


図 2.4 役職指数の年齢推移-所属分野(水産学会)

大学のPIにおける女性比率の推移を現職の在職期間で集計した表においても、回答数が少ないため議論は難しいと思われる。

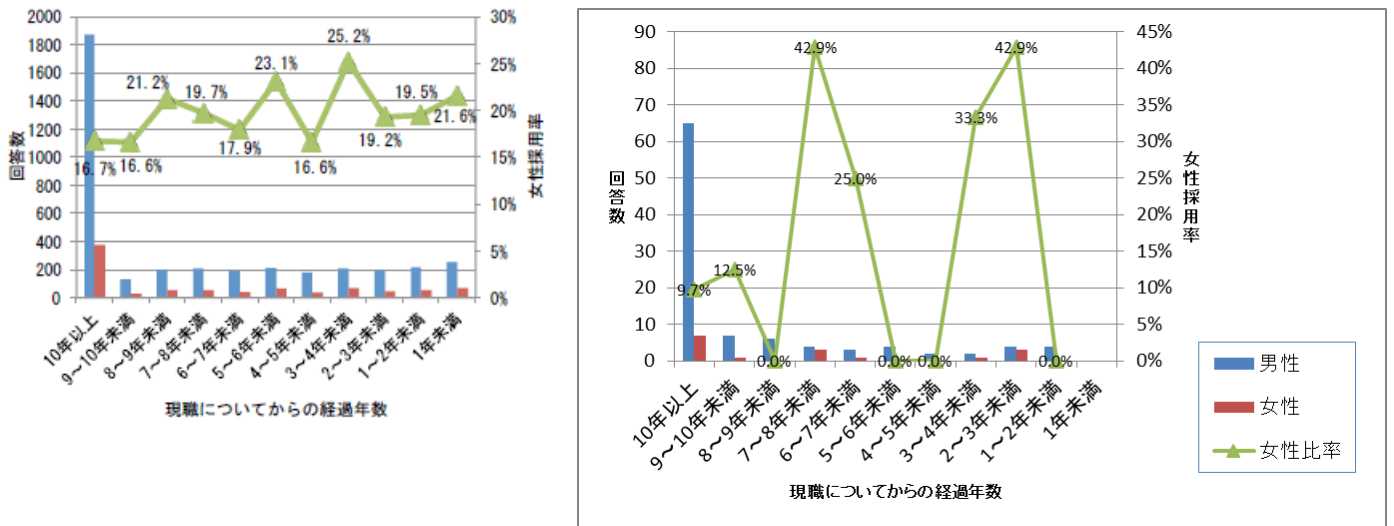


図 2.5 大学教員(講師以上)の女性採用率(左:全体/右:水産学会)

部下人数・研究開発費(図 2.6-10)

所属機関ごとの役職部下人数の分布を見ると、大学男性では40歳以上で部下人数が頭打ちしており、大学女性では30から40歳までは頭打ちだが40歳以降年齢が増すとともに部下人数が増えていき、研究機関男性については年齢が増すごとに部下人数が増えていく傾向を示している。研究機関と企業の女性に関しては部下がいる回答者が非常に少ない。また、男性では年齢が増すごとに大学・研究機関・企業の順に部下の人数差が開いていく大規模アンケートと同じ傾向が示されている。

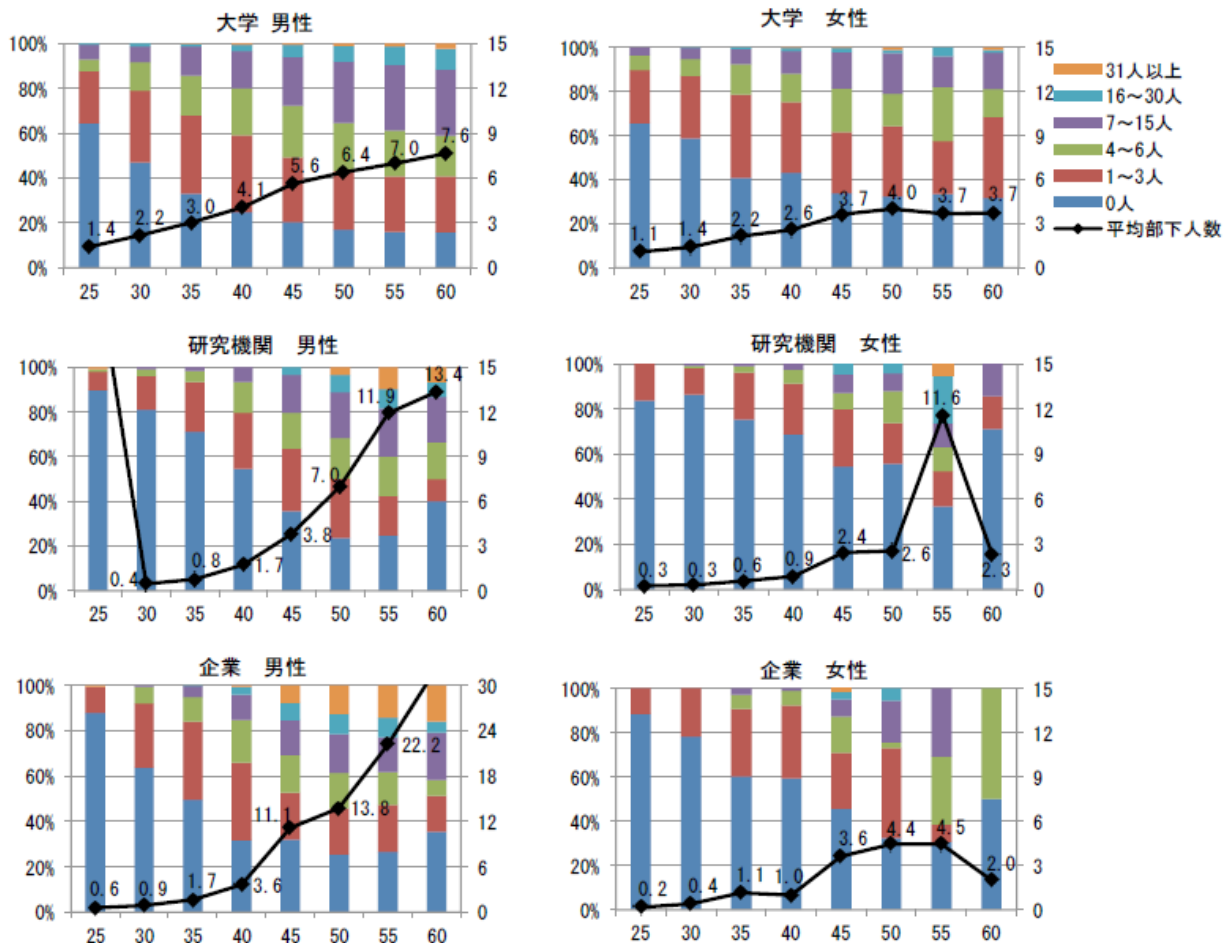


図 2.6 部下人数の年齢推移—所属機関別

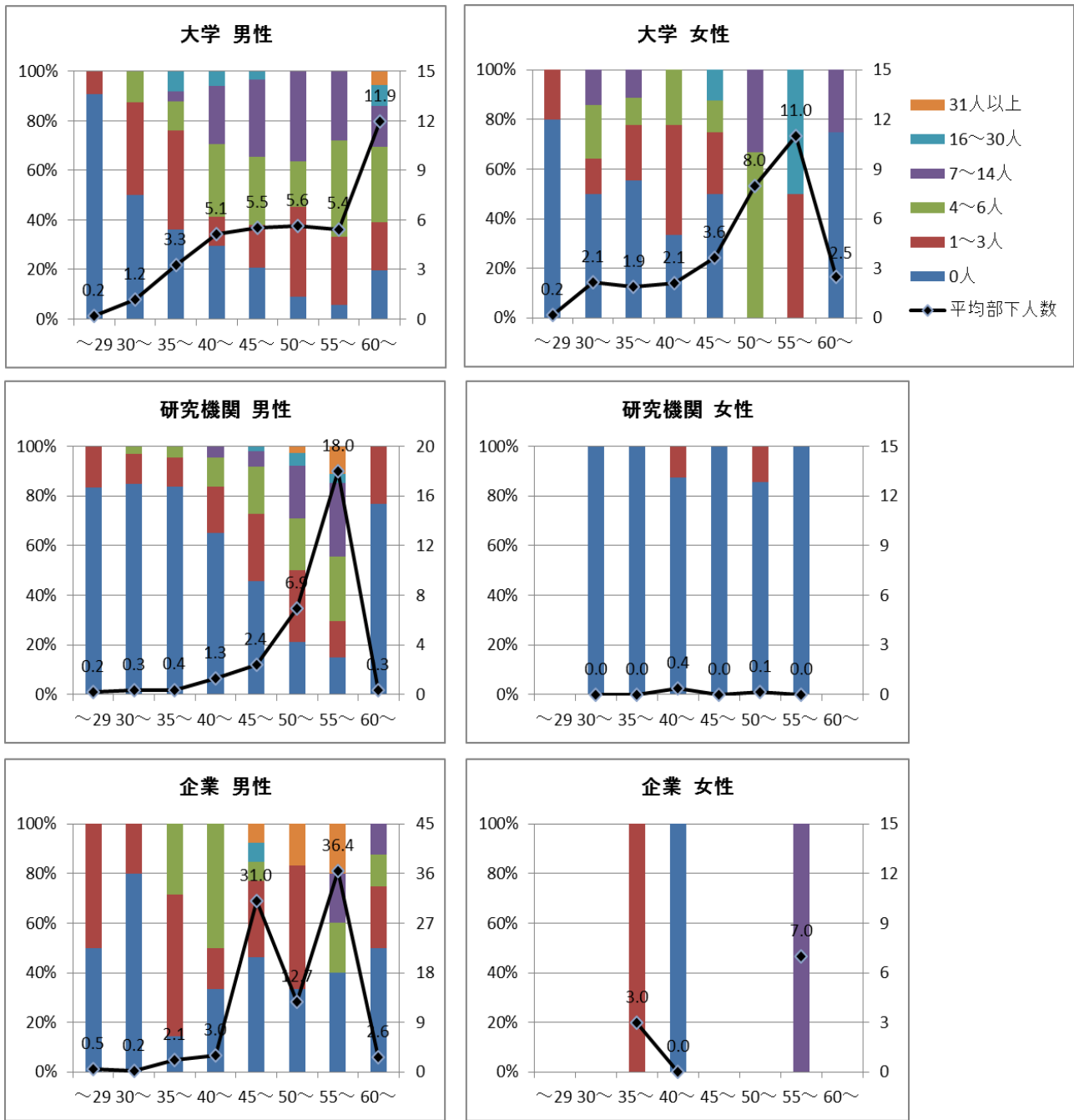


図 2.6 部下人数の年齢推移-所属機関別(水産学会)

研究開発費に関しては、大規模アンケートとほぼ同じ傾向を示していると思われる。

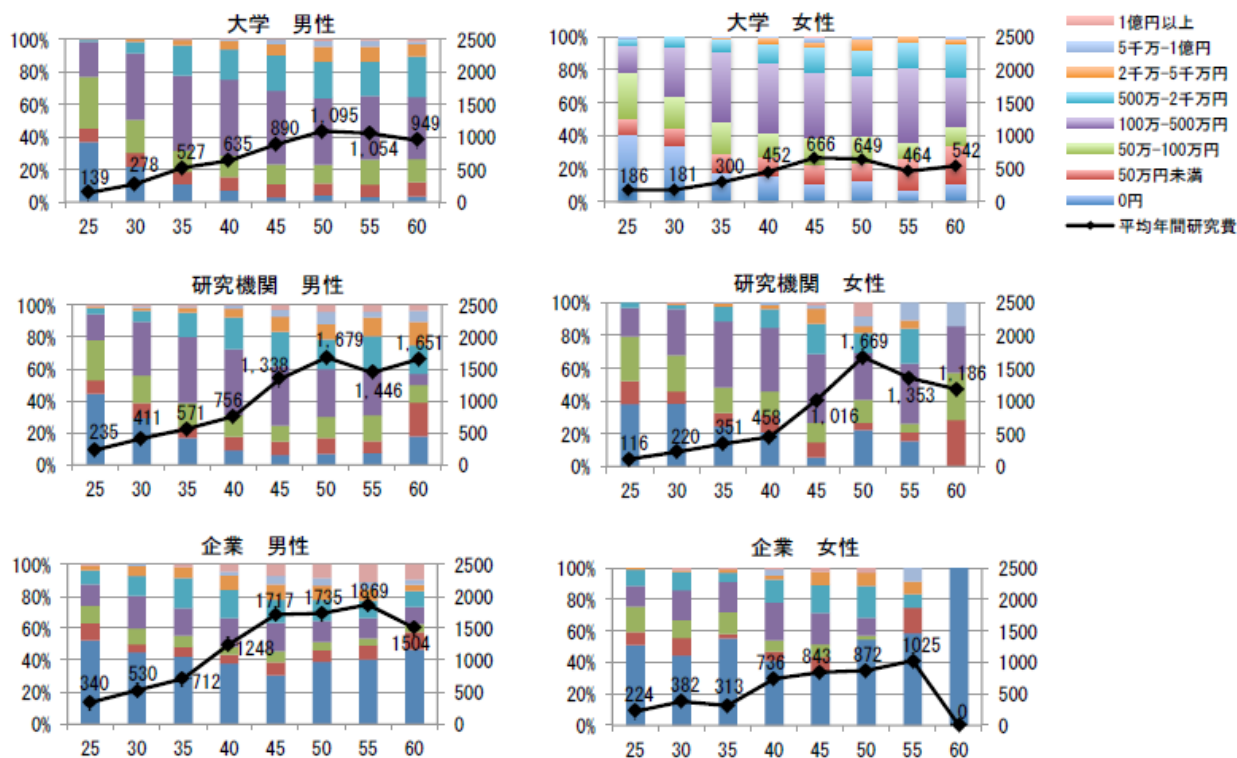


図 2.7 研究開発費の年齢推移—所属機関別

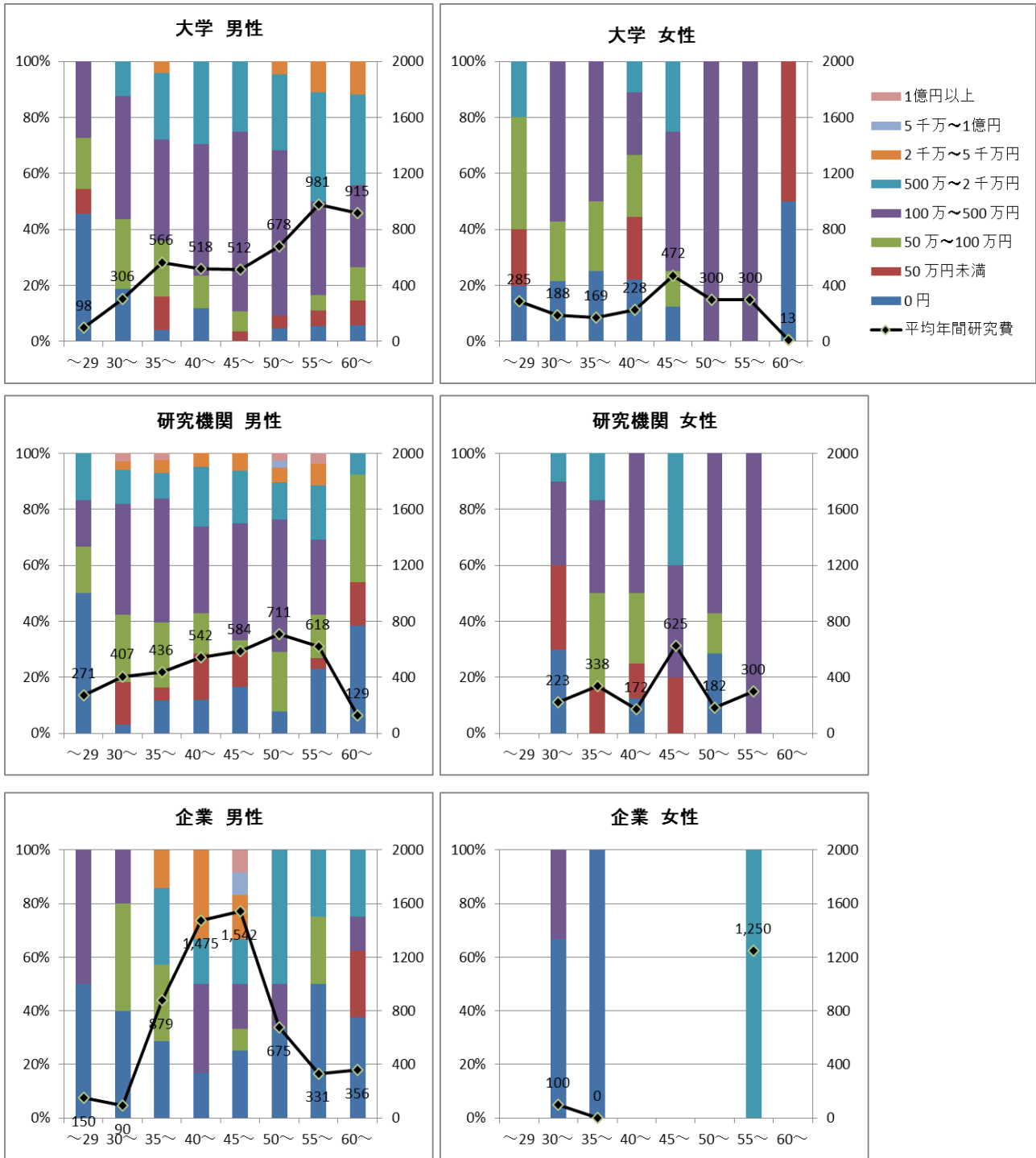


図 2.7 研究開発費の年齢推移-所属機関別(水産学会)

大学別の研究開発費に関しては、回答数が少ないため傾向が読み取れない。

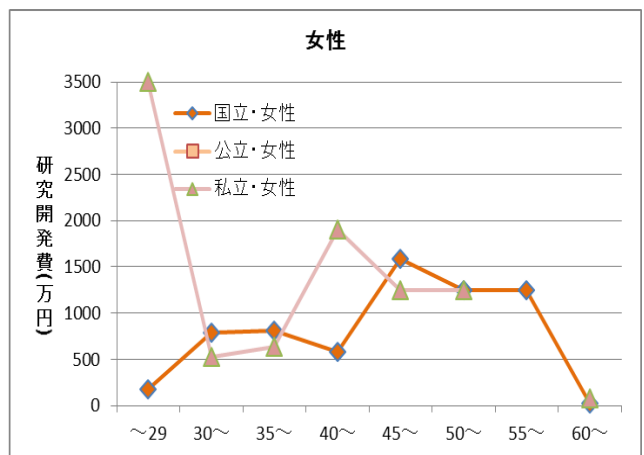
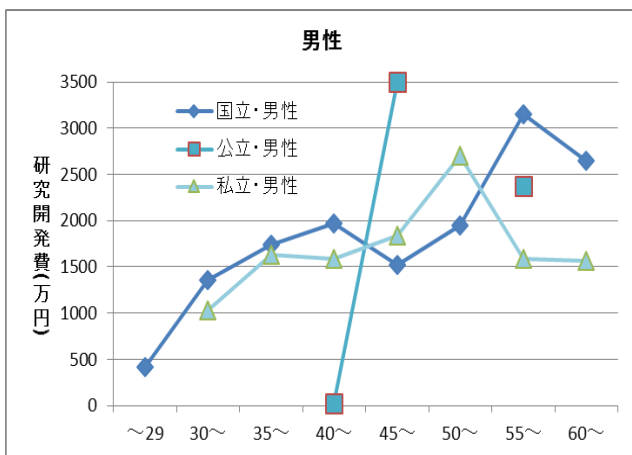
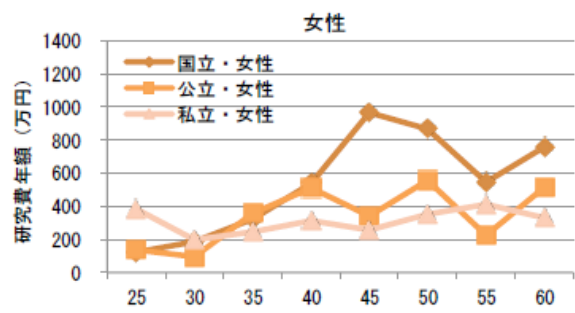
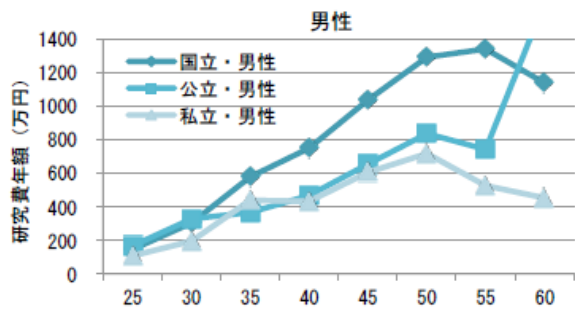


図 2.8 研究開発費の年齢推移—大学別(上:全体/下:水産学会)

大規模アンケートでは所属機関、役職によらず、部下人数も研究開発費も男性が女性を上回っているが、水産学会では必ずしもそうではない。ただし、これも回答数が少ないため、傾向を判断するのは難しい。

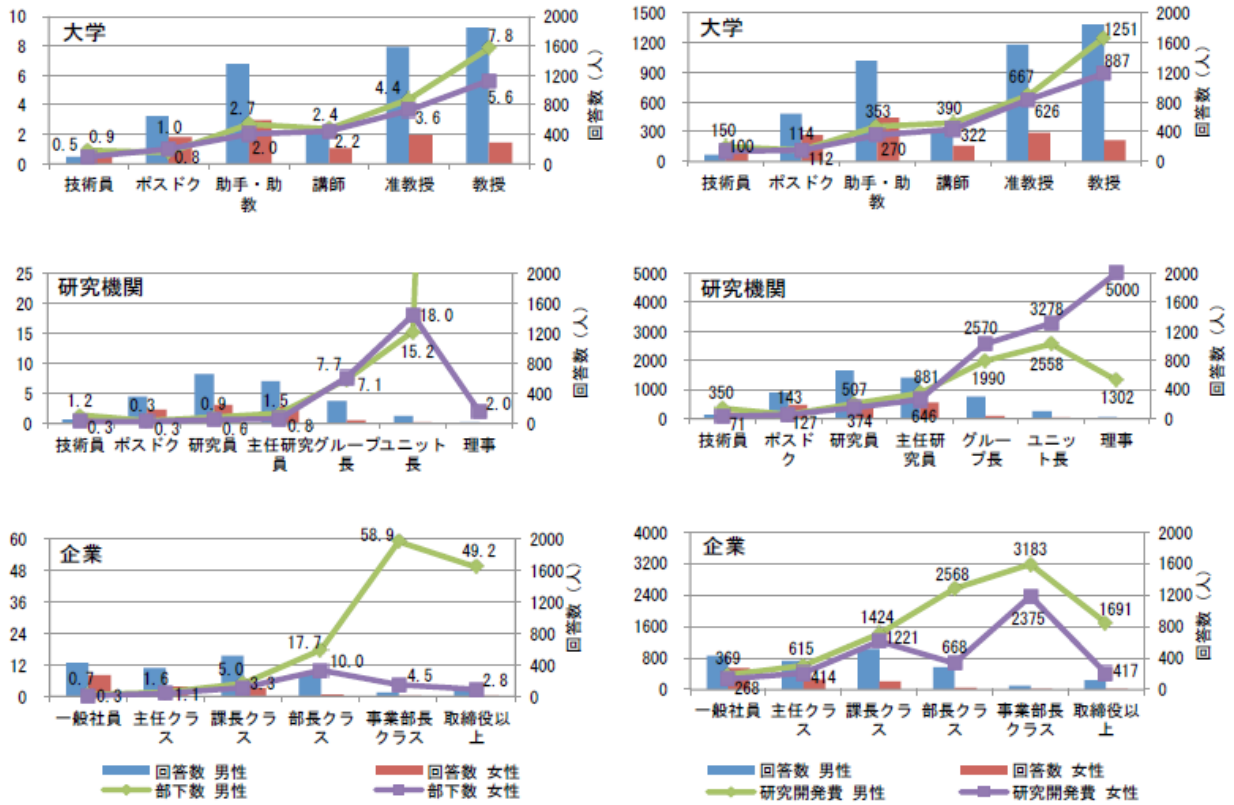


図 2.9 役職別の部下人数(左)と研究開発費(万円:右)

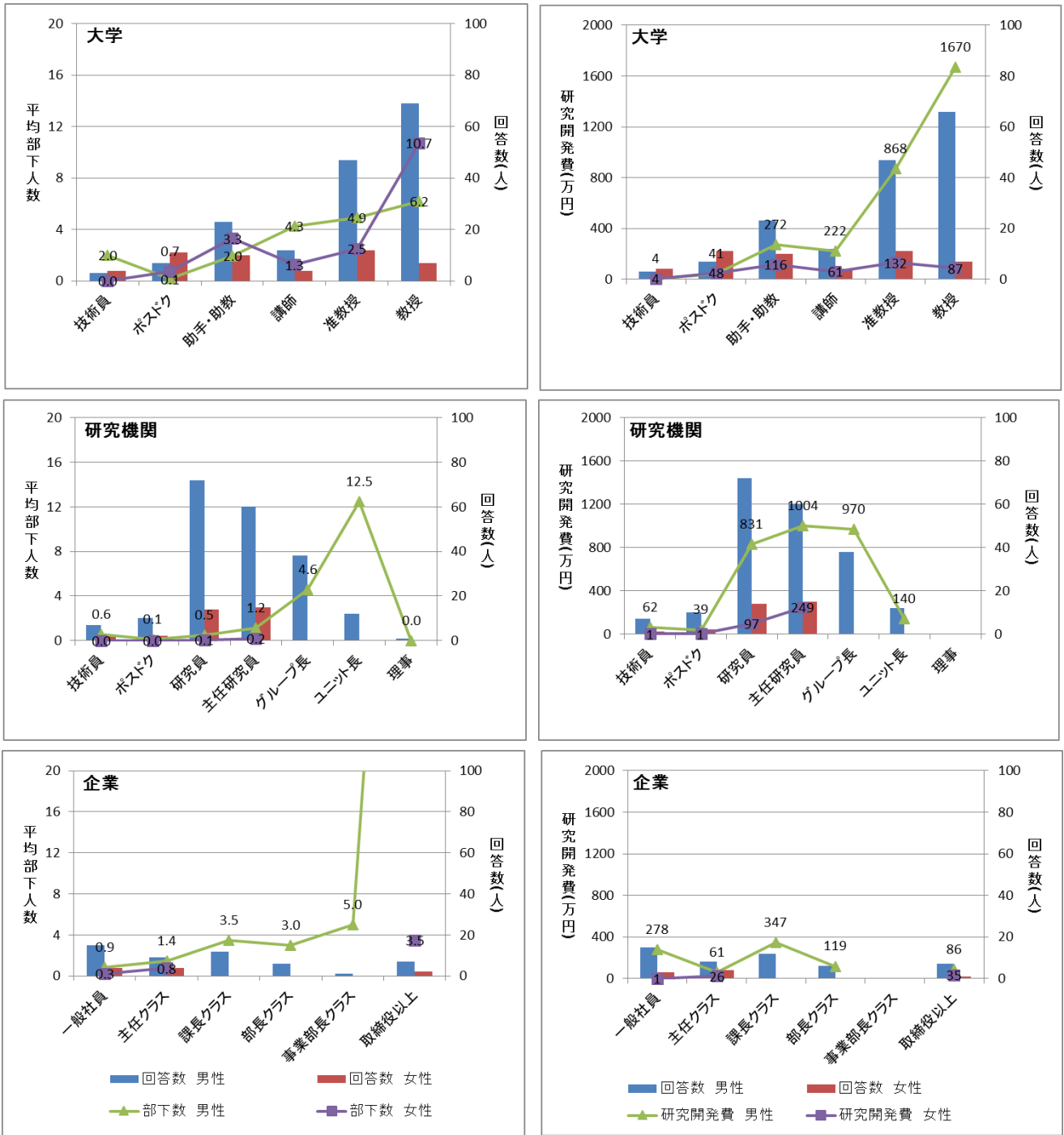


図 2.9 役職別の部下人数と研究開発費(水産学会)